

障害者、高齢者のコミュニケーション支援に関する研究 —知的障害者の日常生活支援ハンドブックの開発—

A Study on Communication Support for Elderly Persons and Persons with Disabilities

—Development of Handbook of Daily Life Support for Persons with Intellectual Disabilities—

大森清博 杉本義己 北川博巳 絹川麻理

OMORI Kiyohiro, SUGIMOTO Yoshimi, KITAGAWA Hiroshi, KINUKAWA Mari

キーワード：

知的障害者、日常生活、福祉機器、環境調整、ハンドブック

Keyword:

Persons with Intellectual Disabilities, Daily Life, Welfare Device, Environmental Manipulation, Handbook

Abstract:

Under Services and Supports for Persons with Disabilities Act, it is desired that persons with disabilities can live independent daily or social lives according to their respective abilities and aptitudes. However, people on the fields of caring don't understand enough about specific assistive methods although various researches and case examples are available to the public. The purpose of this study is to develop a handbook of daily life support for persons with intellectual disabilities, and the handbook is targeted at their family and support persons.

In this year, in order to develop brief specifications of the handbook, we conduct bibliographic survey and one case survey at Takarazuka city where family association of persons with intellectual disabilities actively provides transfer support to care homes such as one night stay training. As these results, brief specifications consist of 10 kinds of situations which are listed according to time series of one daily life, and each situation has some action steps.

1 はじめに

平成22年度版障害者白書によると、全国の知的障害児・者数は54.7万人、うち在宅者は41.9万人である。一方、先進諸国における一般人口に対する割合が1.5～2.5%であることと比較すると我が国の実際の知的障害児・者数はもっと多く、在宅者も多いとする報告¹⁾がなされている。また、障害者自立支援法施行に伴い、地域移行が進められているが、家族介護でもなく施設入所でもない「(一定以上の介助を伴う)自立生活」という形で暮らす知的障害者は100人単位の人数であろうという報告²⁾もあり、自立生活へ向けた支援が強く望まれている。

知的障害者に対する支援方法については、様々な研究成果や文献が公開されており、近年ではインターネットでの情報収集・発信も活発になっているが、必ずしも当事者、家族、支援者がそれらの情報を活用しているとは言えず、支援現場で行われている工夫事例についても他の現場に向けて十分情報発信されているとは言えない。認知障害支援プロジェクトが実施したアンケート調査³⁾によると、日常生活の様々な場面で、当事者の意識に上らない困難さ(片付けや施錠、火の始末など)と、こだわりによる拒否や過剰な実施による困難さがあること、それらの困難を解消するために全介助している場面が多いことが指摘されている。そして、自立生活支援のためにどの部分を頼り、どの部分を自分で解決するのかを把握、選択できるようなセルフガイドが必要であるとしている。

本研究では、知的障害者の自立生活を支援することを目的として、「朝起きてから寝るまで」の日常

生活の流れに着目して、既存の研究成果・文献や支援の現場での工夫事例などから、生活のどの部分でどのような支援方法があるのかを抽出・整理したハンドブックの制作を行う。なお、ハンドブックをより広く活用してもらうためには読みやすさへの配慮など種々の工夫も想定されるため、今回は家族やその他の支援者が活用することを想定して制作を進める。本年度は、既存の生活支援方法の整理、およびハンドブックの概略仕様設計を行ったので、以下に報告する。

2 既存の生活支援方法の整理

2.1 既存研究の調査

知的障害者の自立生活支援には大別して、当事者へ向けたアプローチと、家族や支援者へ向けたアプローチがある。前者は当事者が主体的に考えたり実行したりするためのもので、支援者にはファシリテータとしての役割が求められる。代表的なものを以下に紹介する。

- ・LL (lättläst) ブック⁴⁾ …スウェーデンにおいて1960年代から知的障害者の読書する権利を保障するために制作された本。生活経験や生活年齢に合った内容、例えば法律や、恋愛、病気などを、読みやすく配慮して書かれている。日本においても、知的障害・自閉症児者のための読書活動をすすめる会や全日本手をつなぐ育成会などが翻訳、出版などの活動を行っている。
- ・社会生活力プログラム⁵⁾ …数名の知的障害者でグループを構成し、5部門(①生活の基礎をつくる、②自分の生活をつくる、③自分らしく生きる、④社会参加する、⑤自分の権利をいかす)に5つずつのモジュールを用意し、グループ討議を通じて自分の障害を正しく理解し、社会参加する方法を知り、それを実践できるようになることを目指して行われる。

一方、後者は知的障害者の特性に配慮して効果的に支援するための方法をまとめたものである。代表的なアプローチとして、

- ・TEACCH⁶⁾ …自閉症スペクトラム障害児・者を対象とした、①物理的環境の整理統合、②予測可能な活動の手順の提示、③視覚的スケジュール、柔軟性を持つルーティン、④ワーク／活動システム、⑤視覚的に構造化された活動、からなる教育的介入方法、
- ・ABA (応用行動分析)⁷⁾ …人がなぜそのように行動するのか明らかにするため、行動と環境の

相互作用を、先行事象－行動－結果事象といった三項随伴性で整理し、望ましい行動を強化し、行動問題を減らすように対応する手法、などがある。上記以外にもコミュニケーション支援に特化したPECSや、社会生活をスムーズに行うための訓練方法としてSSTなどがある。さらに、これらの理論をもとに、様々な視点から具体的な支援方法を整理した事例集も報告、出版されている。代表的なものを以下に紹介する。

- ・知的障害のある人々への配慮⁸⁾ …ノルウェーの非営利研究組織であるSINTEFが作成。知的障害者が暮らしの中で補助器具を使うためのヒントを朝、仕事／学校が終わってから、余暇、公共の場に分けて紹介している。なお、本テキストは認知障害支援プロジェクト³⁾が邦訳している。

- ・絵で見る構造化の事例集⁹⁾¹⁰⁾ …TEACCHをベースにして、学校や作業所、自宅などにおいて空間の構造化手法や、スケジュールやワークシステムの活用方法を紹介した事例集。

- ・住まいや暮らし方の事例集¹¹⁾ …排泄や入浴、食事、大きな音、多動や飛び出し、遊びやいたずらといった在宅での困難に対して、家族でできる工夫を紹介した環境調整の事例集。

これらのアプローチの中で知的障害者の生活場面を分類する方法として、時間別(朝昼夜、など)、場所別(トイレ、風呂、廊下、など)、状況別(日常的な活動、非常時、社会参加、など)が挙げられる。当事者向けには状況別、支援者向けには時間別、場所別の分類が多い。

2.2 現場での工夫事例調査

既存研究の調査と並行して、ハンドブックの整理項目の検討と事例収集のため、(財)兵庫県手をつなぐ育成会から県内で地域移行支援を積極的に進めている地区の一つとして(社)宝塚市手をつなぐ育成会での取り組みを紹介いただき、聞き取り調査を実施した。

宝塚市では育成会を中心に地域移行支援としてケアホーム運営(現在は(福)宝塚さざんか福祉会が運営)と、そのための2段階の宿泊訓練を実施している。ハンドブックの整理項目の参考資料として、特に日常生活場面に関わるアセスメント項目について、宿泊訓練では生活上の状態(食事、排便、衣服、対話、遊び、入浴、就寝)について、ケアホームでは日本グループホーム学会の支援マニュアルを参考にアセスメントしている、との意見を得た。また、ケアホームの施設見学では、

- ・玄関の壁に「お出かけ前チェック表」、
 - ・リビングの壁に「あいさつ表」、
 - ・キッチンの収納棚に「収納する物の名札」、
 - ・テレビを壊さないようにキャスター付きの箱に収納、
- といった工夫が見られた。

3 ハンドブックの概略仕様

本研究では、家族や支援者が日常生活場面での支援に活用できるハンドブックを制作することとする。既存研究では日常生活場面を時間別や場所別に整理する方法があるが、当事者や家族から効果的に生活ニーズを聞き出して整理することを重視し、知的障害者ケアマネジメントのための生活支援アセスメント¹²⁾の分類法をもとに、朝起きてから寝るまでの時間に沿って、10種類の生活場面とそれぞれの場面で2～7項目の行動手順を抽出した。

ただし、知的障害者の自立支援において、コミュニケーション支援や金銭管理、健康管理、危機管理、就労、余暇活動などの支援も重要であるが、本研究では日常生活場面に特化して整理することとした。

次に、それぞれの行動手順で行われる支援事例を参考文献3), 8)-21) から抽出し、「(その場面で使用できる) 機器の工夫」、「環境調整」、「その他(人の手による工夫)」に分類した。抽出した事例数を表1に示す。さらに、表1の横軸に「(その場面で使用できる) 福祉機器」を追加項目として、照明機能付き目覚まし時計、タイムタイマー、パーティションユニット、食事用自助具など10製品を整理した。なお、知的障害者向けの機器の一つであるVOCAはコミュニケーション支援機器なので除外した。以上をハンドブックの概略仕様とする。

4 考察および今後の課題

ハンドブックの概略仕様にしたがって参考文献の支援事例を整理した結果、支援事例が一つも無い行動手順項目が複数あることが分かった。これは、現状では支援方法が無い(家族や支援者が全介助したり肩代わりしたりする)項目か、逆に、支援の必要ない、もしくは簡単な見守りや声掛けで対応できる項目であると考えられる。特に後者については、例えばお出かけ前のチェック表のように文献調査には無かった工夫事例もハンドブックに反映できるものとする。

次年度は上記の課題に対し、当事者の家族や支援者等に協力いただいて工夫事例を収集すると共に、

利用する立場からの意見を反映したハンドブックの制作と配布方法の検討を進める。

謝 辞

本研究を進めるにあたりご協力いただいた、(財)兵庫県手をつなぐ育成会、(社)宝塚市手をつなぐ育成会、(社福)宝塚さざんか福祉会の皆さまに厚く謝意を表します。

また、多くの示唆をいただいた、神戸学院大学の内原正一氏に厚く謝意を表します。

参考文献

- 1) 日本知的障害者福祉協会編集出版企画委員会編、「知的障害者施設の現状と展望 - 現場からの提言」、中央法規、2007
- 2) 寺本晃久、岡部耕典、末永弘、岩橋誠治、「良い支援? 知的障害/自閉の人たちの自立生活と支援」、生活書院、2008
- 3) 認知障害支援プロジェクト、「知的障害者の自立生活を支援するセルフガイドプログラムに関する調査・研究調査研究報告書」、平成18年度(財)テクノエイド協会福祉用具普及促進助成事業、2007
- 4) 藤澤和子、服部敦司、「LLブックを届ける」、読書工房、2009
- 5) 奥野英子、関口恵美、佐々木葉子、大場龍男、興梠理、星野晴彦、「自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル - 知的障害・発達障害・高次脳機能障害等のある人のために」、中央法規、2006
- 6) ゲーリー・メジボフ、ビクトリア・シェア、エリック・ショブラー編著、服巻智子、服巻繁訳、「自閉症スペクトラム障害の人へのトータル・アプローチ TEACCH とは何か」、エンパワメント研究所、2007
- 7) 小笠原恵、「発達障害のある子の「行動問題」解決スタディやさしく学べる応用行動分析」、中央法規、2010
- 8) ノルウェー・SINTEF、「知的障害のある人々への配慮～機能障害のための専門的な試みへの助言」(文献3において邦訳されている)、1989
- 9) 佐々木正美、宮原一郎、「自閉症児のための絵で見る構造化」、学習研究社、2004
- 10) 佐々木正美、宮原一郎、「自閉症児のための絵で見る構造化パート2」、学習研究社、2006
- 11) 京都府立大学人間環境学部福祉空間研究室、日本自閉症協会京都支部、京都手をつなぐ育成会、「知的障害者とその家族のための住まいや暮らし方の工夫の事例集」、2006
- 12) 門田光司、桑園英俊、柳沢享、箱崎孝二、「知的障害・自閉症の方への地域生活支援ガイド～食事、身だしなみから、外出の支援まで」、中央法規、2006
- 13) グンネル・ヴィンランド著、尾添和子訳、吉川かおり監修、「重度知的障害のある人と知的援助機器～自立の原点を探る」、大揚社、2009
- 14) 武蔵博文、高畑庄蔵、「発達障害のある子とお母さん・先生のための思いっきり支援ツール」、エンパワメント研究所、2006

- 15) 河本佳子、“スウェーデンの知的障害者 その生活と対応策”、新評論、2006
- 16) 特別支援教育におけるコミュニケーション支援編集委員会編著、“特別支援教育におけるコミュニケーション支援 ～AACから情報教育まで”、ジアース教育新社、2005
- 17) 全国知的障害養護学校長会編著、“コミュニケーション支援とバリアフリー”、ジアース教育新社、2005
- 18) 佐々木正美監修、梅永雄二編著、志賀利一、中山清司、西尾保暢著、“青年期自閉症へのサポート ～青年・成人期のTEACCH実践”、岩崎学術出版社、2004
- 19) 二井るり子、大原一興、小尾隆一、石田祥代、“知的障害のある人のためのバリアフリーデザイン”、彰国社、2004
- 20) 佐藤暁、“発達障害のある子の困り感に寄り添う支援”、学習研究社、2004
- 21) 鳴門教育大学、鳴門教育大学附属特別支援学校、“研究紀要41 社会性を育むための授業づくり～自立生活を主とした授業研究をとおして”、2011

表1 日常生活場面における支援取り組み事例数 (参考文献3),8)-21) より)
Table 1 Number of support approaches in daily living (reference 3),8)-21))

		福祉機器	機器の工夫	環境調整	その他
起床	一人で起床(目覚まし時計)	4	2	1	2
	布団片付け			1	
着替え	季節にあった服選び		1	2	
	着替え			2	3
	服の片付け		1	1	
朝食	バランスのとれたメニューづくり				
	食べたいメニューを選ぶ				1
	調理	1	10	2	
	配膳		1	3	
	食べる	3			5
	片付け			5	
整容	歯磨き	1	6	1	3
	洗顔				1
	髪をとく				1
	ひげ剃り/化粧				
排泄	タイミング				3
	排泄、排尿		1	7	1
	紙や水の使いすぎ		4	1	
洗濯	服の汚れの把握				1
	洗濯機に入れる			1	
	天気の確認				
	洗濯機の操作		3		
	干す		2		
	取り込む				
	片付け		2	7	2
掃除	箒、掃除機の利用		1		
	掃除の程度や範囲			8	1
夕食	バランスのとれたメニューづくり				
	食べたいメニューを選ぶ				
	調理				
	配膳				
	食べる				
	片付け				
入浴	歯磨き				
	掃除、湯張り				
	量や温度の確認				
	脱衣	1	1		1
	つかる				
	洗体、洗髪		1	3	1
	遊びすぎない		1	1	
	着衣			1	
就寝	お湯やガスの確認				
	タイミング				
	ベッドメイク				
	目覚ましのセット				
	就寝				
合計		10	37	47	26